土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　砂防指定地内河川　鍋屋谷川　通常砂防事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（交付金）　一級河川　江の川水系　鍋屋谷川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.2	**調査位置**	広島県三次市粟屋町			**北緯**	34° 47′ 45.6534″
発注機関	広島県北部建設事務所			**調査期間**	2021年 12月 24日 ～ 2022年 1月 7日	**東経**	132° 49′ 55.0157″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 208.42m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 18°
総削孔長	10.00m	**使用機種**		**試錐機**	東邦地下工機　D1-C48		
エンジン	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機　BG-3C				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
				玉石混じり砂礫		褐	rd2		新生代第四紀完新世	玉石分はL=10～26cmで採取される。最大連続長は30cmに達す。その他の礫分はφ10～50mmのものが多い。また，細礫分の含有量はかなり多い。マトリクスは粘土質砂からなり，砂の粒度分布は良い。2.55～3.0m間は大径の礫に乏しい。GL-0.80mに無水掘り水位を認める。凶入試料の含水は非常に高い。また，各試料には少なくない角礫を含んでいる（礫打ちの影響が当然に想定される）。	12/24 0.80
							rd3				01/06 1.60
											01/07 3.02
	203.42	5.00									
				砂礫		褐	rd3			礫分はφ30mm以下が主体をなし，コア長として認める玉石分は含まない。上位と酷似した層相ではあるが，細粒分が若干減少した感がある。貫入試料に豊富な角礫を含むのは上位と同じである。	
	201.47	6.95									
	201.27	7.15		風化流紋岩		淡緑灰			中生代白亜紀	軟質角礫状コアを呈す。岩片は強い指圧で崩せる。【DII級，軟岩Ⅰに相当する】	
				流紋岩		朱灰				L=10cm以下の短柱状コアを主体とする。7.45～8.0m間は，弱い破砕と変質を伴い，角礫～岩片状コアをなす。岩片は中硬質である。やや割れ目に富んだ岩盤である。【CL級，軟岩Ⅰに相当する】	
	199.87	8.55									
				流紋岩		朱灰				L=10cm内外の短柱状コアを呈す。虫食い状に新鮮度が増し，コアの乾きが早い。岩片は硬質である。【CM級，軟岩Ⅱに相当する】	
	198.97	9.45									
				流紋岩		朱灰				高角の割れ目に沿って，さらに小割れしている。岩片状コアが主体をなす。岩片は中硬質で，上位に比べ少し軟化している。【CL級，軟岩Ⅰに相当する】	
	198.42	10.00									

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
5	1.15	2	1	2	5/300		
23	1.45						
	2.15	8	8	7	23/300		
25	2.45						
	3.15	9	9	7	25/300		
11	3.45						
	4.15	5	2	4	11/300		
27	4.45						
	5.15	9	7	11	27/300		
14	5.45						
	6.15	4	5	5	14/300		
115	6.45						
	7.00	33	17	30	50/130	130	
	7.13						
	8.00	貫入不能			50/0		
	8.00						
	9.00	貫入不能			50/0		
	9.00						
	10.00	貫入不能			50/0		
	10.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					12/24
					1/6
					1/7